

健康福祉常任委員会 所管事務報告
資 料
令和3年8月19日

※報告日までは外部への
資料提供はご遠慮ください。

中央病院の経営状況について（令和3年度第1四半期）

中央病院 病院改革担当部 経営企画課

1. 概況

第1四半期における兵庫県の新型コロナウイルス感染症（以下「新型コロナ」という。）の感染者数の動向については、3月下旬から増加傾向に転じ、4月23日には3回目の緊急事態宣言（4月25日～6月20日）が発出されました。同宣言に基づく措置の実施により感染者数は減少傾向に転じ、6月21日から7月11日までは、まん延防止等重点措置実施区域に指定され、引き続き感染収束に向けた取組が行われました。

中央病院においても、4月は新型コロナ患者専用病床の稼働率が90%を超え、入院患者については酸素投与が必要な中等症Ⅱの患者数が増加しました。こうした状況に対応するために、5月17日から一般病棟（新型コロナ患者専用病床のある病棟以外の病棟。以下同じ。）の病床数を縮小し、段階的に新型コロナ患者の受入病床を増床する病棟の再編成を行いました。

令和3年度は、前年度に引き続き一般病棟(144床)の病床稼働率80%の達成を暫定目標に掲げていますが、こうした状況から診療所訪問など稼働率向上に向けた取組は実施できませんでした。その結果、第1四半期の一般病棟の病床稼働率は、市民の受診意識の変化などにより入院患者数は増加しましたが、74.3%（前年度同期対比+8.6ポイント）に留まり目標値には届きませんでした。一方で、医業収益は患者数の増加に加えて、診療単価の増加等により約11億5,600万円（前年同期対比+2億1,600万円）となり、純損益についてもマイナス約1億6,200万円（前年同期対比+1億7,600万円）に留まり、いずれも目標値に達しました。

2. 第1四半期における主な取組

(1) 新型コロナ対応に向けた新たな取組

- ・新規の入院患者全員に対するPCR検査の実施（6月～）
- ・市民等に対する新型コロナワクチン接種の実施（3月～）
- ・新型コロナ患者の受入病床の増床及び病棟の再編成（5/17～9/30(予定)）

4/1～5/16			5/17～9/30(予定)		
病棟名	種類	病床数	病床数	種類	備考
4F東	急性期一般	47床	37床 (▲10)	地域包括ケア病棟	休床
4F西	急性期一般	46床	56床 (+10)	急性期一般	4F東の10床を移行し増床
5F	地域包括ケア病棟	49床	49床 (±0)	急性期一般	コロナ専用病床以外の 病床(29床)は休床
	(コロナ専用病棟)	最大14床	最大20床 (+6)	(コロナ専用病棟)	
6F	急性期一般	51床	51床 (±0)	急性期一般	変更なし
計	急性期一般:144床	193床	193床 (±0)	急性期一般:156床 ※実質一般病床としての稼働は107床 (156-49)	

※5階病棟(コロナ専用病棟)の入院料については、中等症Ⅱの患者の増加と収益確保を踏まえ、5月より地域包括ケア病棟入院料から地域一般入院料の算定に、6月からは病棟再編により急性期一般入院料の算定に変更

(2) 病床稼働率及び収益向上に向けた取組

①タスクフォース（診療科ヒアリング）の実施

5月に診療科ヒアリングを実施し、各科の定床数を一般病棟(144床)に対応したものに変更するとともに、各科より「病床稼働率80%」達成に向けた取組(上半期)を提示させ、収益向上に向けた意識の醸成を図りました。病床稼働率や取組状況について毎月経営層で進捗管理し、業績が伴わない診療科については個別に対応策を協議、推進します。

②電話再診の継続 第1四半期：90件（前年度同期：123件）

3. 収益的収支状況（4月～6月）

（単位：千円、％）

項目	R2	R3 (A)	前年度との比較		目標値 (R3当初予算) (B)	達成率 (A)/(B)	経営改革 プラン値 (参考)
			増減額	増減率			
医業収益	939,793	1,156,232	+ 216,439	+ 23.0%	1,117,206	103.5%	1,255,692
入院収益	515,995	658,323	+ 142,328	+ 27.6%	627,172	105.0%	696,088
外来収益	309,199	372,600	+ 63,401	+ 20.5%	361,643	103.0%	417,996
その他医業収益	114,599	125,309	+ 10,710	+ 9.3%	128,390	97.6%	141,608
医業費用	1,401,433	1,443,915	+ 42,482	+ 3.0%	1,536,509	94.0%	1,558,198
給与費	730,872	728,599	▲ 2,273	▲ 0.3%	765,943	95.1%	764,244
材料費	254,866	280,811	+ 25,945	+ 10.2%	301,082	93.3%	316,784
経費	304,864	310,286	+ 5,422	+ 1.8%	340,044	91.2%	353,352
減価償却費	107,531	118,223	+ 10,692	+ 9.9%	118,223	100.0%	113,419
その他医業費用	3,300	5,996	+ 2,696	+ 81.7%	11,217	53.5%	10,399
医業収支	▲ 461,640	▲ 287,683	+ 173,957	—	▲ 419,303	—	▲ 302,506
医業外収益	158,991	154,645	▲ 4,346	▲ 2.7%	163,807	94.4%	164,868
医業外費用	32,104	32,388	+ 284	+ 0.9%	33,409	96.9%	33,887
経常収支	▲ 334,753	▲ 165,426	+ 169,327	—	▲ 288,905	—	▲ 171,525
特別利益	353	3,348	+ 2,995	+ 848.4%	1,042	321.3%	1,061
特別損失	4,176	23	▲ 4,153	▲ 99.4%	3,685	0.6%	3,344
純損益	▲ 338,576	▲ 162,101	+ 176,475	—	▲ 291,548	—	▲ 173,808

※ 現金支出を伴わない費用（減価償却費など）や一般会計繰入金など12等分で算出している項目がある。

※ 「目標値(R3当初予算)」はR3当初予算の年間の値を、「経営改革プラン値」は経営改革プランに掲げている年間の目標値をそれぞれ期間に応じた経過日数で除して算出したもの(以下同じ)。

◆ 4月～6月の収益的収支の主な増減項目と内訳（前年度との比較）

医業収益		
入院収益	+142,328 千円	⇒うち、内科+77,463 千円、外科+26,769 千円、泌尿器科+17,878 千円 整形外科▲5,897 千円、皮膚科▲1,759 千円 【5.分析と課題(1)】～
外来収益	+63,401 千円	⇒うち、内科+19,044 千円、泌尿器科+9,024 千円、 歯科口腔外科+5,299 千円、外科+5,168 千円、小児科+4,671 千円 【5.分析と課題(2)】～
その他医業収益	+10,710 千円	⇒うち、公衆衛生活動収益+16,328 千円
医業費用		
給与費	▲2,273 千円	⇒うち、会計年度任用職員報酬▲4,426 千円、給料▲1,424 千円、 時間外勤務手当+3,242 千円
材料費	+25,945 千円	⇒うち、診療材料費+18,508 千円、薬品費+8,344 千円
経費	+5,422 千円	⇒うち、修繕料+5,656 千円、委託料+2,141 千円、光熱水費▲2,849 千円
減価償却費	+10,692 千円	⇒うち、器械備品減価償却費+15,801 千円
医業外収益	▲4,346 千円	⇒うち、一般会計負担金▲4,430 千円
特別利益	+2,995 千円	⇒うち、過年度損益修正益+2,995 千円

4. 業務実績（4月～6月）

項目	R2	R3 (A)	前年度との比較		目標値 (R3当初予算等)	達成率 (A)/(B)	経営改革 プラン値 (参考)	
			増減値	増減率	(B)			
入院 指標	入院患者数 (人)	9,368	10,873	+ 1,505	+ 16.1%	11,011	98.7%	13,013
	1日平均患者数 (人)	102.9	119.5	+ 16.6	+ 16.1%	121	98.8%	143
	病床稼働率(193床) (%)	53.3	61.9	+ 8.6	+ 16.1%	-	-	74
	一般病棟(144床) (%)	65.7	74.3	+ 8.6	+ 13.1%	80	92.9%	74
	新入院患者数 (人)	772	1,025	+ 253	+ 32.8%	997	102.8%	1,122
	平均在院日数 (日)	12.2	10.7	▲ 1.5	▲ 12.3%	11.0	97.3%	12.0
	診療単価 (円)	55,081	60,547	+ 5,466	+ 9.9%	56,900	106.4%	53,500
外来 指標	外来患者数 (人)	19,267	22,738	+ 3,471	+ 18.0%	22,477	101.2%	26,413
	1日平均患者数 (人)	315.9	372.8	+ 56.9	+ 18.0%	370	100.8%	433
	診療単価 (円)	16,048	16,386	+ 338	+ 2.1%	16,200	101.1%	16,000
その 他 指標	救急搬送受入件数 (件)	216	264	+ 48	+ 22.2%	317	83.4%	
	救急搬送応需率 (%)	73.7	64.5	▲ 9.2	▲ 12.5%	83.0	77.7%	
	紹介率 (%)	71.2	72.5	+ 1.3	+ 1.8%	72.0	100.7%	
	紹介患者数 (人)	1,713	2,322	+ 609	+ 35.6%	2,718	85.4%	
	逆紹介率 (%)	85.8	75.9	▲ 9.9	▲ 11.5%	83.0	91.4%	
	逆紹介患者数 (人)	1,608	1,931	+ 323	+ 20.1%	2,618	73.8%	

※「目標値(R3当初予算等)」のうち、入院及び外来指標はR3当初予算の値を、その他指標及び「経営改革プラン値」は経営改革プランに掲げている年間の目標値をそれぞれ期間に応じた経過日数で除して算出したもの。

◆ 4月～6月の業務実績の主な増減項目と内訳（前年度との比較）

入院患者数	+1,505人	⇒うち、内科+1,075人、泌尿器科+159人、眼科+139人、小児科+134人 整形外科▲77人、皮膚科▲81人	【5.分析と課題(1)】へ
一般病棟の病床稼働率	+8.6 ㊦	⇒一般病棟の新入院患者数の増加 (730人(R2)→926人(R3) +196人)	
新入院患者数	+253人	⇒うち、内科+113人、眼科+70人、外科+24人、小児科+20人、 歯科口腔外科+12人	
平均在院日数	▲1.5日	⇒地域包括ケア病棟を新型コロナ患者専用病棟として運用したことによる影響	
診療単価	+5,466円	⇒新型コロナ患者専用病棟を急性期一般入院料等の算定変更による影響	
外来患者数	+3,471人	⇒うち、内科+929人、歯科口腔外科+469人、小児科+340人、 皮膚科+336人、泌尿器科+334人、整形外科+300人	【5.分析と課題(2)】へ
診療単価	+338円	⇒診療単価が比較的安価な患者の減少による影響	
救急搬送受入件数	+48件	⇒要請件数の増加 (293件(R2)→409件(R3) +116件)	
救急搬送応需率	▲9.2 ㊦	⇒満床による不応需件数の増加による影響	
紹介患者数	+609人	⇒うち、内科+133人、歯科口腔外科+74人、皮膚科・泌尿器科+59人、 小児科+39人、整形外科+26人	
逆紹介患者数	+323人	⇒うち、内科+116人、歯科口腔外科+39人、泌尿器科+29人、 小児科▲20人、眼科▲17人	

5. 分析と課題

(1) 入院収益について

①病院全体の状況

令和3年度においても、新型コロナ重点医療機関として県から指定を受けており、5階病棟を新型コロナ患者の専用病棟として運用しています。それに伴い、経営改革プランに掲げる病院全体の目標「全病床(193床)の病床稼働率80%の達成」については、令和2年度下半期に引き続き、暫定的な目標として、「一般病棟(144床)での病床稼働率80%の達成」に切り替えて収益向上に取り組んでいます。なお、5月17日から段階的に新型コロナ患者の受入病床を増床するため一般病棟の病床数を縮小し、6月から一般病棟の病床数は107床となっています。

第1四半期における一般病棟(144床)の病床稼働率は、前年度に比べて8.6ポイントの増加の74.3%となり、目標を達成することができませんでした。なお、6月の一般病棟の病床数を107床として算出した稼働率では81.2%となりました。

また、第1四半期の入院収益は、市民の受診意識の変化などにより入院患者数が増加したため、前年度に比べると約1億4,200万円増加の約6億5,800万円となりました。診療単価については病院全体で増加しており、病棟別で見ると、一般病棟については、不急の手術を延期した前年度に比べ入院手術件数が増加(318件(R2)→454件(R3))したことや、コロナ患者専用病棟については、入院料が従前の地域包括ケア病棟入院料の算定から5月より地域一般入院料の算定に、6月からは急性期一般入院料の算定に変更したことが主な要因です。

◆入院関連指標の状況

項目	R2年度 第1四半期	R3年度 第1四半期	増減	前年度比
入院患者数 (人)	9,368	10,873	+ 1,505	+ 16.1%
一般病棟 (人)	8,613	9,735	+ 1,122	+ 13.0%
コロナ患者専用病棟 [※] (人)	755	1,138	+ 383	+ 50.7%
うち、コロナ患者 (人)	134	1,138	+ 1,004	+ 749.3%
病床稼働率(193床) (%)	53.3	61.9	+ 8.6	+ 16.1%
一般病棟(144床) (%)	65.7	74.3	+ 8.6	+ 13.1%
6月から107床とした場合 (%)		81.2		
コロナ患者専用病棟 [※] (%)	16.9	73.7	+ 56.8	+ 335.5%
入院収益 (千円)	515,995	658,323	+ 142,328	+ 27.6%
一般病棟 (千円)	487,255	593,965	+ 106,710	+ 21.9%
コロナ患者専用病棟 [※] (千円)	28,740	64,359	+ 35,619	+ 123.9%
入院診療単価 (円)	55,081	60,547	+ 5,466	+ 9.9%
一般病棟 (円)	56,572	61,013	+ 4,441	+ 7.9%
コロナ患者専用病棟 [※] (円)	38,066	56,554	+ 18,488	+ 48.6%

※コロナ患者専用病棟について、R2年度は7月まで地域包括ケア病棟として運用しており、コロナ患者以外の患者を含んだ実績です。

※コロナ患者専用病棟の病床稼働率について、R2年度は49床、R3年度は最大14床(5月17日以降、最大20床)を分母として算出しています。

②診療科別の状況

第1四半期においては、多くの診療科で前年度に比べて入院収益が増加し、特に内科、外科、眼科が著しく増加しました。

内科については、新型コロナ患者への対応にあたっていることから、他科に比べて患者数や収益が顕著に増加しました。新型コロナ患者以外では、結腸の悪性腫瘍や虚血性腸炎など消化器系の疾患の症例数が増加しました。費用についても、材料費が主に肺がん患者の化学療法件数の減に伴う薬品費の減少などにより減少しましたが、全体では増加しました。収支においては、収益の増加が費用の増加を上回ったため、前年度に比べ改善しています。

外科については、不急の手術の延期などにより患者数が減少した前年度に比べて、主に鼠径ヘルニアや、肺及び乳房の悪性腫瘍などの疾患の症例数が増加しました。費用についても給与費を除き、手術件数の増加に伴う診療材料費の増などにより増加しました。給与費は、前年度に比べて会計年度任用職員の減に伴い病棟看護師の給与費が減少したことなどにより減少しました。収支においては、内科と同じく前年度に比べ改善しています。

眼科については、外科同様に患者数が減少した前年度に比べて、白内障の患者が増加したことに加え、新たに緑内障の患者への対応も開始したことから、患者数、収益ともに大幅に増加しました。しかし、費用についても手術数の増に伴う診療材料費や、経費等で前年度に購入した白内障手術機器にかかる減価償却費などの費用等が大きく増加したことから、収支においては悪化しています。

一方で、前年度に比べて入院収益が減少した診療科のうち、特に整形外科の減収が顕著でした。整形外科については、地域包括ケア病棟をコロナ専用病棟として運用したことから在院日数が短くなり、入院患者数が減少したことが主な要因であると考えています。費用についても、医師数の減や入院患者減少に伴う病棟看護師等の給与配賦分の減により、給与費が著しく減少しました。しかし、収支においては収益の減少以上に費用が減少したことから改善しています。

③課題

- ・新型コロナ患者の受入病床の増床に伴い、一般病棟の病床数を縮小したことにより、稼働率が100%を超える日があります。患者の受入れに支障が出ないように、引き続き効率的な病棟運用と、後方連携病院との連携強化など適切な退院調整に努める必要があります。
- ・整形外科については、地域包括ケア病棟を活用できない状況が続くことが想定されるため、診療所訪問などを通じて、新入院患者数の増加を図る取組を強化する必要があります。

◆入院収益の増減が著しい診療科

※詳細は添付の診療科別収支（1）入院を参照

項目		R 2 年度 第 1 四半期	R 3 年度 第 1 四半期	増減	前年度比
内科	入院患者数 (人)	5,788	6,863	+ 1,075	+ 18.6%
	入院手術件数 (件)	98	101	+ 3	+ 3.1%
	入院収益 (千円)	295,989	373,453	+ 77,463	+ 26.2%
	入院費用 (千円)	492,907	496,224	+ 3,318	+ 0.7%
	給与費 (千円)	240,963	245,915	+ 4,953	+ 2.1%
	材料費 (千円)	63,945	57,817	▲ 6,128	▲ 9.6%
	経費等 (千円)	41,460	37,990	▲ 3,470	▲ 8.4%
	共通費用 (千円)	146,539	154,502	+ 7,963	+ 5.4%
収支 (千円)	▲ 196,917	▲ 122,772	+ 74,146	▲ 37.7%	
外科	入院患者数 (人)	1,342	1,428	+ 86	+ 6.4%
	入院手術件数 (件)	76	104	+ 28	+ 36.8%
	入院収益 (千円)	94,313	121,082	+ 26,769	+ 28.4%
	入院費用 (千円)	153,053	161,919	+ 8,866	+ 5.8%
	給与費 (千円)	69,490	67,528	▲ 1,962	▲ 2.8%
	材料費 (千円)	24,839	31,394	+ 6,554	+ 26.4%
	経費等 (千円)	12,031	12,904	+ 873	+ 7.3%
	共通費用 (千円)	46,693	50,093	+ 3,401	+ 7.3%
収支 (千円)	▲ 58,740	▲ 40,837	+ 17,903	▲ 30.5%	
整形外科	入院患者数 (人)	648	571	▲ 77	▲ 11.9%
	入院手術件数 (件)	30	27	▲ 3	▲ 10.0%
	入院収益 (千円)	32,906	27,009	▲ 5,897	▲ 17.9%
	入院費用 (千円)	62,016	43,217	▲ 18,799	▲ 30.3%
	給与費 (千円)	36,815	23,333	▲ 13,482	▲ 36.6%
	材料費 (千円)	4,489	5,023	+ 534	+ 11.9%
	経費等 (千円)	4,421	3,687	▲ 734	▲ 16.6%
	共通費用 (千円)	16,291	11,174	▲ 5,117	▲ 31.4%
収支 (千円)	▲ 29,110	▲ 16,208	+ 12,902	▲ 44.3%	
眼科	入院患者数 (人)	32	171	+ 139	+ 434.4%
	入院手術件数 (件)	16	90	+ 74	+ 462.5%
	入院収益 (千円)	3,390	19,272	+ 15,882	+ 468.5%
	入院費用 (千円)	8,077	27,576	+ 19,499	+ 241.4%
	給与費 (千円)	4,485	8,905	+ 4,420	+ 98.5%
	材料費 (千円)	1,475	8,975	+ 7,501	+ 508.6%
	経費等 (千円)	439	1,723	+ 1,284	+ 292.6%
	共通費用 (千円)	1,678	7,973	+ 6,295	+ 375.1%
収支 (千円)	▲ 4,687	▲ 8,305	▲ 3,617	+ 77.2%	

※収益、費用等において端数の関係から合計や増減が合わない場合があります。

※材料費・・・薬品費、診療材料費

※経費等・・・応援医師等の報償費、医療機器の保守委託・減価償却費

※共通経費・・・診療科に配賦できなかった費用。主に光熱水費、建物の減価償却費、事務部門職員の給与費など

(2) 外来収益について

①病院全体の状況

診療所からの紹介患者数の増加などにより、外来患者数が増加したため、第1四半期の外来収益は、前年度に比べると約6,300万円増加の約3億7,300万円となりました。

◆外来関連指標の状況

項目	R2年度 第1四半期	R3年度 第1四半期	増減	前年度比
外来収益 (千円)	309,199	372,600	+ 63,401	+ 20.5%
外来診療単価 (円)	16,048	16,387	+ 339	+ 2.1%
外来患者数 (人)	19,267	22,738	+ 3,471	+ 18.0%
紹介患者数 (人)	1,713	2,322	+ 609	+ 35.6%

②診療科別の状況

診療科別で見ると、1回目の緊急事態宣言下で外出自粛や市民の受診控えの影響が顕著であった前年度に比べると、ほぼ全ての診療科で患者数が増加し、収益は増加しました。特に内科、小児科、泌尿器科、歯科口腔外科の増収が顕著でした。

内科については、内視鏡の検査や手術件数も増加し、増収の要因となりました。費用については、経費等に含まれる委託料が、前年度に購入したCT装置が令和3年度は保守費用が不要なことから減少しましたが、患者数の増加に伴う薬品費の増加などで全体では微増となりました。その結果、収支においては収益の増加が費用の増加を上回ったため、前年度に比べ改善しています。

小児科については、呼吸器系の感染症疾患の入院患者が増加傾向にあり、外来においても同様の傾向が見られました。費用についても、給与費が医師の異動(常勤1人増、非常勤1名減)や、検査の増加に伴う臨床検査技師の給与配賦分の増加などにより増加しました。収支においては、前年度より僅かに改善しています。

泌尿器科については、体外衝撃波結石破碎を行う件数が増加し、増収の要因となりました。費用についても、給与費で調剤や検査件数の増加等に伴う医療技術職の給与配賦分が増加しており、経費等ではCT及びMRI撮影件数の増加により、同機器にかかる減価償却費の配賦分が増え、全体として増加しました。収支においては、収益の増加が費用の増加を上回ったため、前年度に比べ改善しています。

歯科口腔外科については、昨年4月から医師3人(常勤1人、非常勤2人)の体制となったことで、これまで対応が難しかった疾患にも対応できるようになり、手術件数や入院患者数が増加しました。これに伴い、術前の検査や術後のフォロー等を実施する外来患者数も増加しています。費用についても、給与費で、昨年4月採用医師の賞与や外来看護師の給与配賦分が増加しており、経費等ではCT撮影件数の増に伴う同機器にかかる減価償却費の配賦分の増などにより、全体として増加しました。その結果、収支においては、収益をやや上回る費用の増加があり僅かに悪化しています。

◆外来収益の増減が著しい診療科

※詳細は添付の診療科別収支（２）外来を参照

項目		R 2 年度 第 1 四半期	R 3 年度 第 1 四半期	増減	前年度比
内科	外来患者数 (人)	5,777	6,706	+ 929	+ 16.1%
	紹介患者数 (人)	532	665	+ 133	+ 25.0%
	外来収益 (千円)	131,924	150,968	+ 19,044	+ 14.4%
	外来費用 (千円)	207,974	208,622	+ 648	+ 0.3%
	給与費 (千円)	82,215	82,879	+ 664	+ 0.8%
	材料費 (千円)	48,297	51,834	+ 3,537	+ 7.3%
	経費等 (千円)	12,149	11,452	▲ 698	▲ 5.7%
	共通費用 (千円)	65,313	62,457	▲ 2,856	▲ 4.4%
	収支 (千円)	▲ 76,050	▲ 57,654	+ 18,397	▲ 24.2%
小児科	外来患者数 (人)	681	1,021	+ 340	+ 49.9%
	紹介患者数 (人)	115	154	+ 39	+ 33.9%
	外来収益 (千円)	5,463	10,135	+ 4,671	+ 85.5%
	外来費用 (千円)	11,046	15,520	+ 4,473	+ 40.5%
	給与費 (千円)	6,618	9,144	+ 2,526	+ 38.2%
	材料費 (千円)	187	255	+ 68	+ 36.1%
	経費等 (千円)	1,536	1,928	+ 392	+ 25.5%
	共通費用 (千円)	2,705	4,193	+ 1,488	+ 55.0%
	収支 (千円)	▲ 5,583	▲ 5,385	+ 198	▲ 3.5%
泌尿器科	外来患者数 (人)	2,345	2,679	+ 334	+ 14.2%
	紹介患者数 (人)	91	150	+ 59	+ 64.8%
	外来収益 (千円)	33,826	42,850	+ 9,024	+ 26.7%
	外来費用 (千円)	47,369	51,348	+ 3,979	+ 8.4%
	給与費 (千円)	15,525	17,556	+ 2,031	+ 13.1%
	材料費 (千円)	10,980	11,050	+ 70	+ 0.6%
	経費等 (千円)	4,117	5,014	+ 897	+ 21.8%
	共通費用 (千円)	16,746	17,727	+ 981	+ 5.9%
	収支 (千円)	▲ 13,543	▲ 8,498	+ 5,045	▲ 37.3%
歯科口腔 外科	外来患者数 (人)	639	1,108	+ 469	+ 73.4%
	紹介患者数 (人)	104	178	+ 74	+ 71.2%
	外来収益 (千円)	6,064	11,363	+ 5,299	+ 87.4%
	外来費用 (千円)	11,405	17,361	+ 5,956	+ 52.2%
	給与費 (千円)	7,389	10,867	+ 3,478	+ 47.1%
	材料費 (千円)	136	341	+ 205	+ 150.0%
	経費等 (千円)	877	1,452	+ 575	+ 65.6%
	共通費用 (千円)	3,002	4,701	+ 1,699	+ 56.6%
	収支 (千円)	▲ 5,340	▲ 5,998	▲ 657	+ 12.3%

※収益、費用等の集計において端数の関係から合計や増減が合わない場合があります。

③課題

- ・ 3回目の緊急事態宣言下であった第1四半期の外来患者数は、1回目の同宣言下時の前年同期に比べると増加しているものの、コロナ禍以前の実績を確保するに至っておらず、昨年7月以降は全診療科において、ほぼ横這い状態となっています。
- ・ 今後も市民の医療機関への受診控えなどにより、外来患者数の大幅な増加は見込めないため、引き続き市民が安心して受診できるよう環境整備に努める必要があります。

6. 課題への対応と今後の方針

(1) 新型コロナ対応に向けた取組

①感染管理の徹底

- ・ 感染管理を徹底するために、今後も新たな情報や知見に基づき、随時マニュアル等の見直しを行います。

②新型コロナワクチン接種の実施

- ・ 引き続き市の集団接種会場の一つとして、市民へのワクチン接種に対応します。

③国の交付金制度の活用

- ・ 令和3年度においても、新型コロナ患者病床確保に伴う空床補償をはじめ、感染症対策に必要な財源を確保するため、国の交付金制度を積極的に活用します。

(2) 病床稼働率及び収益向上に向けた取組

①診療所等との連携強化に向けた取組の推進

- ・ 8月2日より、まん延防止等重点措置実施区域に再度指定されましたが、指定が解除され次第、診療所訪問を再開し、リウマチ・膠原病内科や収益が低迷している整形外科などについて積極的に訪問し広報に努めます。
- ・ 6月から一般病棟の病床数が107床に縮小されており、効率的な病棟運用に努めるために、自宅への退院が困難な患者の受入先となる後方連携病院への訪問を再開し、さらなる連携強化を図ります。
- ・ 患者の急性増悪時における診療所からの入院要請に対して、円滑に受入れるための仕組みづくりについて、導入しやすい診療科や症例を洗い出し、試行的に実施します。

②診療科タスクフォースの実施

- ・ 「一般病棟(144床)での病床稼働率80%の達成」に向けて、各診療科が掲げた取組状況や病床稼働率を経営層で進捗管理し、業績が伴わない診療科については、個別ヒアリング等を通じて対応策を協議、推進します。

③電話再診の継続

- ・ 感染が収束するまでの間、個々の患者の体調に留意しながら「電話による再診」を継続します。

④広報の推進

- ・ 市民が安心して受診できるよう、ホームページにおいて新型コロナ対応に関する情報提供に努めるとともに、診療所に対しては当院広報誌やメーリングリストを活用して積極的に広報します。
- ・ 当院における市民の新型コロナワクチン接種後の待機時間(15分程度)を有効活用し、接種後の注意事項のほかに病院統合に関する情報提供や中央病院のPRに努めます。

診療科別収支（1）入院

○計上項目について

収益… 医業収益のうち入院及び外来収益のみ ※各科の入院収益、外来収益は査定増減を含んでいないため、2頁の「収益的収支」記載する収益計と一致しない。

費用… 医業費用全て

- ・科別費用… 各診療科に配賦できる給与費（医師、看護師、医療技術職）、材料費、経費等（報償費、委託料及び減価償却費）
- ・共通費用… 各診療科に配賦できない費用（上記に含まれない給与費、材料費、経費、減価償却費、光熱水費、事務部門給与費等）

○費用の各診療科配賦方法

- * 給与費
 - ・医師給与費… 各診療科の入院外来収益で按分（麻酔科医師の給与は一部を手術室の麻酔時間で各診療科に按分）
 - ・その他給与費… 看護師の給与は主に延べ患者数比で按分。医療技術職は業務件数や収益比で按分
- * 材料費
 - ・薬品費… 薬剤料比で按分
 - ・診療材料費… 手術室分は主に各診療科へ直課、その他は行為別収益の材料費の収益比で按分
- * 経費等
 - ・報償費… 応援の医師及び医療技術職の報償費について各診療科へ直課
 - ・委託料… 給食について入院延患者数比で按分、機械保守委託料（一部）について各診療科へ直課、及び実績件数、収益比で按分
 - ・減価償却費… 各科に配賦できるものは診療科へ直課。放射線科の機器等は件数、放射線治療収益で按分
- * 共通費用… 各診療科の収益比で按分（全費用の30%程度）

○麻酔科は、主に手術室の麻酔業務で各診療科を支援しており、支援にかかる治療行為の収益は他の診療科の収益に貢献している。

放射線科は、診療科の支援部門でもあり、検査や放射線治療は他の診療科の収益に貢献している。

※単位未満の端数処理から合計や増減が合わない場合があります。

(単位：千円)

内科		R2年第1四半期	R3年第1四半期	増減
①収益	入院収益	295,989	373,453	77,463
②費用	計	492,907	496,224	3,318
	医師給与費	67,951	71,465	3,514
	その他給与費	173,011	174,451	1,439
	診療材料費	27,154	28,896	1,742
	薬品費	36,791	28,921	▲7,870
	経費等	41,460	37,990	▲3,470
	共通費用	146,539	154,502	7,963
③収支 (①-②)		▲196,917	▲122,772	74,146
費用対収益比率(費用/収益)		167%	133%	

(単位：千円)

外科		R2年第1四半期	R3年第1四半期	増減
①収益	入院収益	94,313	121,082	26,769
②費用	計	153,053	161,919	8,866
	医師給与費	21,013	24,274	3,260
	その他給与費	48,477	43,255	▲5,222
	診療材料費	17,265	22,428	5,162
	薬品費	7,574	8,966	1,392
	経費等	12,031	12,904	873
	共通費用	46,693	50,093	3,401
③収支 (①-②)		▲58,740	▲40,837	17,903
費用対収益比率(費用/収益)		162%	134%	

(単位：千円)

整形外科		R2年第1四半期	R3年第1四半期	増減
①収益	入院収益	32,906	27,009	▲5,897
②費用	計	62,016	43,217	▲18,799
	医師給与費	12,559	9,089	▲3,470
	その他給与費	24,256	14,244	▲10,012
	診療材料費	3,487	3,352	▲135
	薬品費	1,001	1,671	670
	経費等	4,421	3,687	▲734
	共通費用	16,291	11,174	▲5,117
③収支 (①-②)		▲29,110	▲16,208	12,902
費用対収益比率(費用/収益)		188%	160%	

(単位：千円)

小児科		R2年第1四半期	R3年第1四半期	増減
①収益	入院収益	17,809	23,512	5,704
②費用	計	31,709	33,679	1,970
	医師給与費	9,499	8,998	▲501
	その他給与費	2,417	4,182	1,764
	診療材料費	254	486	231
	薬品費	10,259	9,451	▲808
	経費等	462	835	373
	共通費用	8,817	9,727	911
③収支 (①-②)		▲13,901	▲10,167	3,734
費用対収益比率(費用/収益)		178%	143%	

(単位：千円)

皮膚科		R2年第1四半期	R3年第1四半期	増減
①収益	入院収益	18,224	16,465	▲1,759
②費用	計	29,995	21,288	▲8,707
	医師給与費	5,170	4,388	▲782
	その他給与費	12,038	7,189	▲4,848
	診療材料費	748	1,134	387
	薬品費	1,320	499	▲821
	経費等	1,698	1,265	▲432
	共通費用	9,022	6,812	▲2,211
③収支 (①-②)		▲11,771	▲4,823	6,948
費用対収益比率(費用/収益)		165%	129%	

(単位：千円)

泌尿器科		R2年第1四半期	R3年第1四半期	増減
①収益	入院収益	51,735	69,613	17,878
②費用	計	89,737	96,201	6,464
	医師給与費	8,086	8,376	291
	その他給与費	24,898	24,351	▲547
	診療材料費	8,000	10,868	2,868
	薬品費	4,707	3,952	▲755
	経費等	18,434	19,853	1,420
	共通費用	25,613	28,800	3,187
③収支 (①-②)		▲38,002	▲26,588	11,415
費用対収益比率(費用/収益)		173%	138%	

(単位：千円)

眼科		R2年第1四半期	R3年第1四半期	増減
①収益	入院収益	3,390	19,272	15,882
②費用	計	8,077	27,576	19,499
	医師給与費	2,729	4,879	2,149
	その他給与費	1,756	4,026	2,271
	診療材料費	1,238	7,768	6,530
	薬品費	237	1,207	970
	経費等	439	1,723	1,284
	共通費用	1,678	7,973	6,295
③収支 (①-②)		▲4,687	▲8,305	▲3,617
費用対収益比率(費用/収益)		238%	143%	

(単位：千円)

歯科口腔外科		R2年第1四半期	R3年第1四半期	増減
①収益	入院収益	5,932	9,747	3,815
②費用	計	12,817	15,951	3,134
	医師給与費	4,151	4,685	534
	その他給与費	3,545	3,969	424
	診療材料費	932	1,244	312
	薬品費	573	1,327	754
	経費等	679	694	15
	共通費用	2,937	4,032	1,095
③収支 (①-②)		▲6,884	▲6,204	680
費用対収益比率(費用/収益)		216%	164%	

(単位：千円)

麻酔科		R2年第1四半期	R3年第1四半期	増減
①収益	入院収益	382	1,376	994
②費用	計	2,479	4,700	2,221
	医師給与費	480	1,547	1,067
	その他給与費	664	808	144
	診療材料費	666	802	135
	薬品費	425	860	436
	経費等	55	114	59
	共通費用	189	569	380
③収支 (①-②)		▲2,097	▲3,324	▲1,227
費用対収益比率(費用/収益)		650%	342%	

診療科別収支（２）外来

(単位：千円)

内科		R2年第1四半期	R3年第1四半期	増減
①収益	外来収益	131,924	150,968	19,044
②費用	計	207,974	208,622	648
	医師給与費	30,200	28,899	▲ 1,300
	その他給与費	52,015	53,979	1,964
	診療材料費	68	328	260
	薬品費	48,229	51,506	3,277
	経費等	12,149	11,452	▲ 698
	共通費用	65,313	62,457	▲ 2,856
③収支 (①-②)		▲ 76,050	▲ 57,654	18,397
費用対収益比率(費用/収益)		158%	138%	

(単位：千円)

小児科		R2年第1四半期	R3年第1四半期	増減
①収益	外来収益	5,463	10,135	4,671
②費用	計	11,046	15,520	4,473
	医師給与費	2,917	3,932	1,015
	その他給与費	3,701	5,212	1,511
	診療材料費	97	174	77
	薬品費	91	81	▲ 10
	経費等	1,536	1,928	392
	共通費用	2,705	4,193	1,488
③収支 (①-②)		▲ 5,583	▲ 5,385	198
費用対収益比率(費用/収益)		202%	153%	

(単位：千円)

眼科		R2年第1四半期	R3年第1四半期	増減
①収益	外来収益	11,388	13,762	2,374
②費用	計	26,756	21,682	▲ 5,073
	医師給与	9,832	3,684	▲ 6,148
	その他給与	9,652	9,900	248
	診療材料	4	0	▲ 4
	薬品	516	1,453	937
	経費等	1,113	951	▲ 162
	共通費用	5,638	5,694	56
	③収支 (①-②)		▲ 15,368	▲ 7,920
費用対収益比率(費用/収益)		235%	158%	

(単位：千円)

放射線科		R2年第1四半期	R3年第1四半期	増減
①収益	外来収益	18,226	25,976	7,750
②費用	計	37,583	44,616	7,033
	医師給与費	0	0	0
	その他給与費	8,714	10,319	1,604
	診療材料費	0	0	0
	薬品費	170	213	42
	経費等	19,674	23,338	3,663
	共通費用	9,023	10,747	1,723
③収支 (①-②)		▲ 19,357	▲ 18,640	717
費用対収益比率(費用/収益)		206%	172%	

(単位：千円)

外科		R2年第1四半期	R3年第1四半期	増減
①収益	外来収益	58,754	63,922	5,168
②費用	計	89,530	89,331	▲ 199
	医師給与費	13,080	12,830	▲ 250
	その他給与費	16,288	14,533	▲ 1,755
	診療材料費	106	186	80
	薬品費	25,546	29,889	4,343
	経費等	5,422	5,447	25
	共通費用	29,088	26,445	▲ 2,643
③収支 (①-②)		▲ 30,776	▲ 25,409	5,367
費用対収益比率(費用/収益)		152%	140%	

(単位：千円)

皮膚科		R2年第1四半期	R3年第1四半期	増減
①収益	外来収益	18,859	21,813	2,954
②費用	計	30,610	32,622	2,012
	医師給与費	5,578	6,063	484
	その他給与費	7,278	8,415	1,137
	診療材料費	236	202	▲ 34
	薬品費	7,035	7,942	906
	経費等	1,146	977	▲ 169
	共通費用	9,337	9,024	▲ 312
③収支 (①-②)		▲ 11,752	▲ 10,809	942
費用対収益比率(費用/収益)		162%	150%	

(単位：千円)

歯科口腔外科		R2年第1四半期	R3年第1四半期	増減
①収益	外来収益	6,064	11,363	5,299
②費用	計	11,405	17,361	5,956
	医師給与	4,212	5,488	1,275
	その他給与	3,177	5,379	2,202
	診療材料	49	228	179
	薬品	87	113	25
	経費等	877	1,452	575
	共通費用	3,002	4,701	1,699
	③収支 (①-②)		▲ 5,340	▲ 5,998
費用対収益比率(費用/収益)		188%	153%	

(単位：千円)

婦人科、脳外、リハ		R2年第1四半期	R3年第1四半期	増減
①収益	外来収益	4,780	5,948	1,168
②費用	計	9,626	10,154	528
	医師給与費	0	0	0
	その他給与費	4,488	4,875	386
	診療材料費	174	227	53
	薬品費	17	10	▲ 7
	経費等	2,581	2,581	0
	共通費用	2,366	2,461	94
③収支 (①-②)		▲ 4,847	▲ 4,206	641
費用対収益比率(費用/収益)		201%	171%	

(単位：千円)

整形外科		R2年第1四半期	R3年第1四半期	増減
①収益	外来収益	9,914	13,845	3,930
②費用	計	19,715	22,793	3,078
	医師給与費	3,971	4,682	712
	その他給与費	5,897	6,818	922
	診療材料費	312	506	195
	薬品費	659	1,187	528
	経費等	3,969	3,871	▲ 98
	共通費用	4,908	5,728	819
③収支 (①-②)		▲ 9,801	▲ 8,948	853
費用対収益比率(費用/収益)		199%	165%	

(単位：千円)

泌尿器科		R2年第1四半期	R3年第1四半期	増減
①収益	外来収益	33,826	42,850	9,024
②費用	計	47,369	51,348	3,979
	医師給与費	5,324	5,191	▲ 133
	その他給与費	10,201	12,365	2,164
	診療材料費	238	228	▲ 10
	薬品費	10,743	10,823	80
	経費等	4,117	5,014	897
	共通費用	16,746	17,727	981
③収支 (①-②)		▲ 13,543	▲ 8,498	5,045
費用対収益比率(費用/収益)		140%	120%	

(単位：千円)

麻酔科		R2年第1四半期	R3年第1四半期	増減
①収益	外来収益	10,622	12,414	1,792
②費用	計	27,029	29,110	2,081
	医師給与	13,012	14,567	1,555
	その他給与	6,270	6,422	151
	診療材料	0	0	0
	薬品	976	1,834	858
	経費等	1,512	1,152	▲ 360
	共通費用	5,259	5,136	▲ 123
③収支 (①-②)		▲ 16,407	▲ 16,696	▲ 289
費用対収益比率(費用/収益)		254%	234%	